

資料提供	
平成24年11月1日	
担当 (担当者)	水産試験場 (志村・山田)
電話	0859-45-4500

## 平成24年漁期 ズワイガニ漁の見通し

### 解禁直後（鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖）

松葉がに…小～中型個体が主体となり前年並みとなる。

若松葉…前年を下回る。

親がに（雌）…前年をやや下回る。

漁期全般：漁獲量は前年を下回る可能性がある。

### 解禁直後の見通しの根拠となった情報

**第一鳥取丸による調査結果** 10月3日～26日にかけて、水深174m～441mの海域において、合計26点で着底トロールによる漁期前調査を行いました（図1）。調査海域内において漁獲対象となるズワイガニの推定資源尾数（単位＝万尾）は表1のようになりました。

表1 調査海域におけるズワイガニの資源尾数（単位＝万尾）

区分	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	前年比
松葉がに（甲幅9.5cm以上）	4	11	28	28	39	140%
若松葉（甲幅10.5cm以上）	166	152	179	263	176	67%
親がに（くろこ）	191	184	272	272	249	91%

**松葉がに**：出雲沖と鳥取沖で前年より増加しましたが（表1、図2左）、大型個体は少なく甲幅10～12cm台の小～中型個体が主体となるため漁獲重量や漁獲金額の大幅増加は見込めません（図3）。

**若松葉**：全域で減少しており（図2中央）、甲幅10～12cm台の小～中型個体が少なくなっています（図3）。

**親がに**：隠岐北西沖と鳥取沖で増加しましたが全体では前年を下回り（図2右）、甲幅7～8cm台の小～中型個体が主体となりました（図3）。

### 漁期全般の見通しの根拠となった情報

- (1) 鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移（図4） 親がには概ね700トン前後で安定して漁獲されています。松葉がに（2007年377トン→2011年267トン）と若松葉（2007年285トン→2011年186トン）は近年減少傾向にあります。
- (2) 水研調査（調査月：5-6月）：（独）水産総合研究センターは、富山県以西の海域における2012年のズワイガニ資源重量について2011年より少なく推定しています（図5-6）。
- (3) まとめ 第一鳥取丸の調査結果から小中型個体が主体の漁獲となることが予想されます。さらに、長期的な漁獲量の変動と広域の試験調査結果を考慮すると大幅な資源回復は期待できないことから、漁期全般の漁獲量（重量換算値）は前年を下回る可能性があります。

**漁業者へのお願い**：資源回復のために未成年ガニが多量に入網する海域での操業自粛や再放流に努め、ズワイガニ漁期外には改良網を使用しましょう。

**ホームページ** 本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=101110>

図1 試験操業位置 (図中黒丸が操業位置)

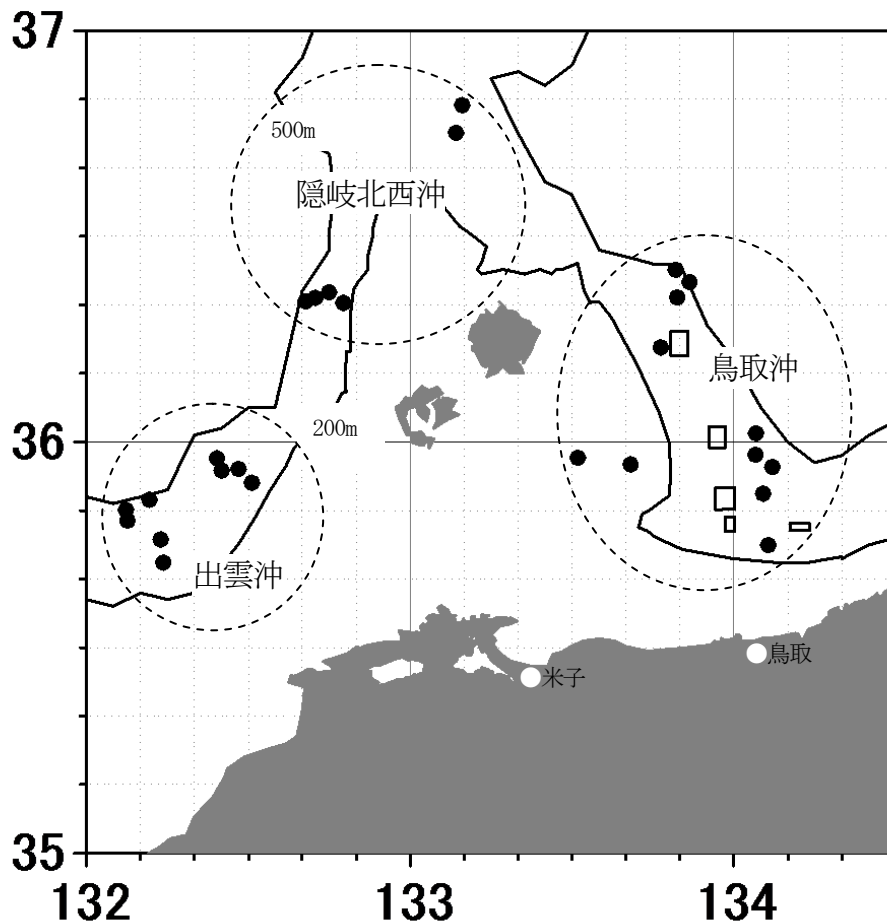


図2 年別海域別の資源尾数

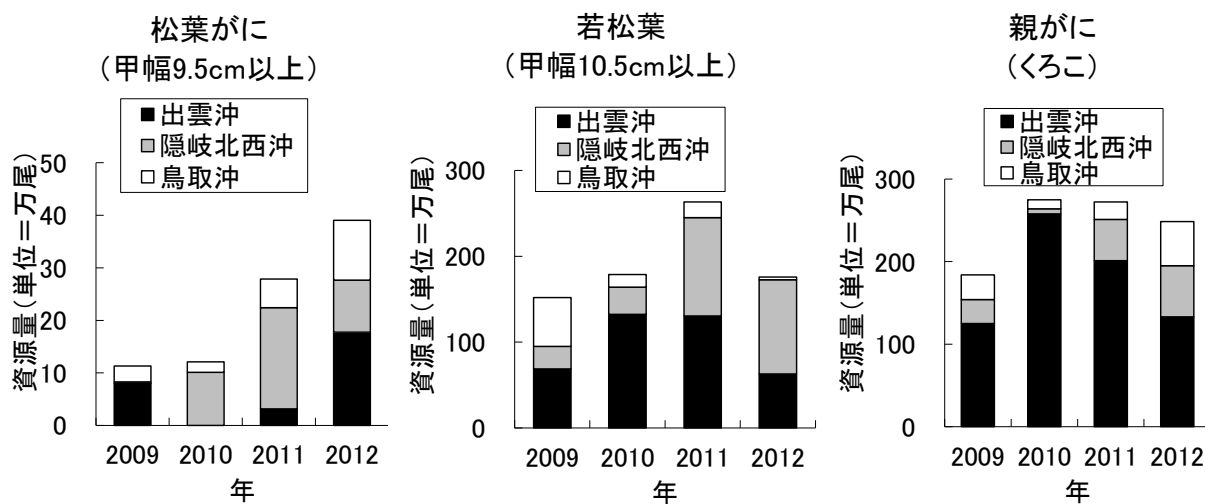


図3 トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2009-2012年)  
資源尾数の単位は万尾

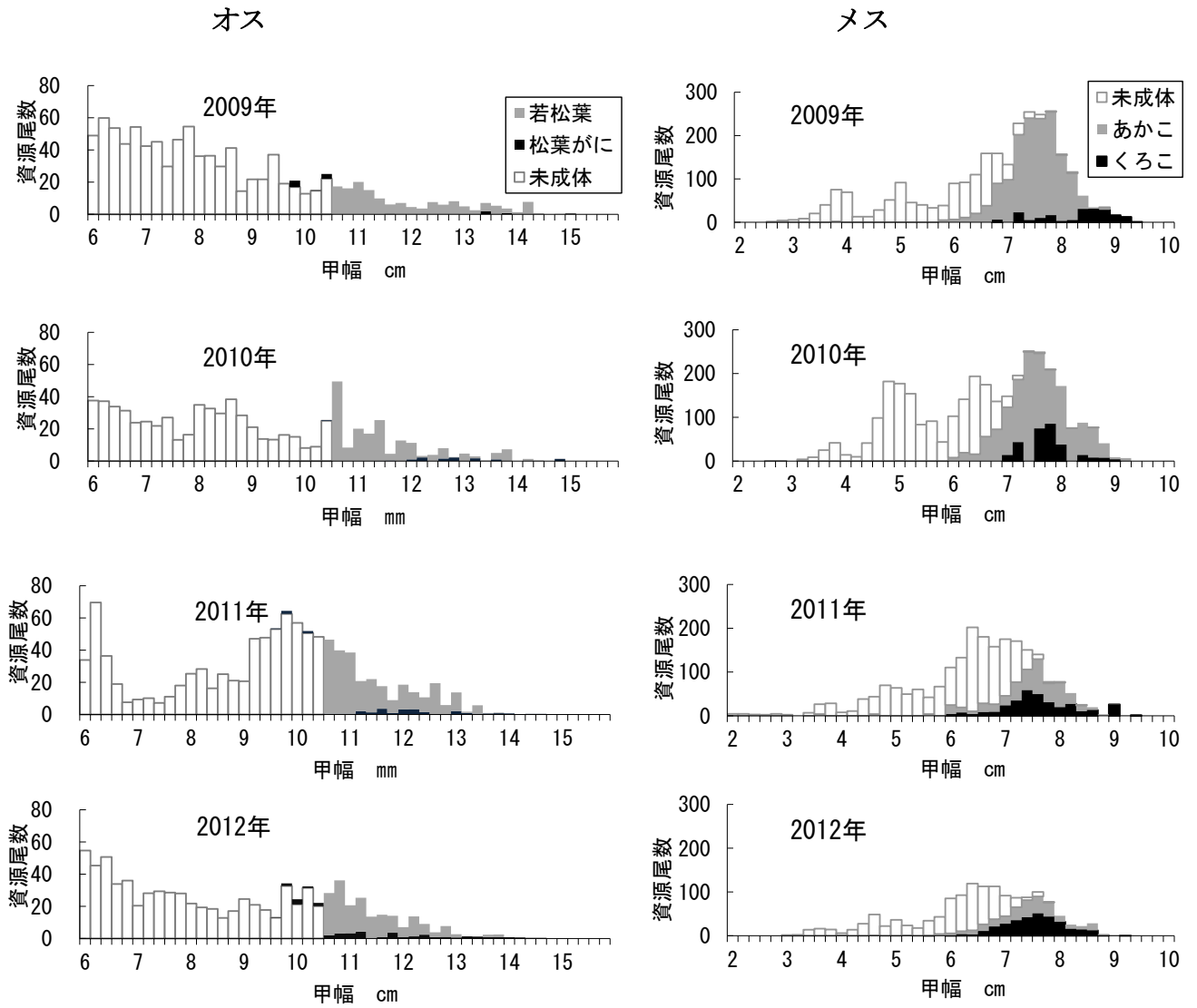


図4 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量 (漁期年)

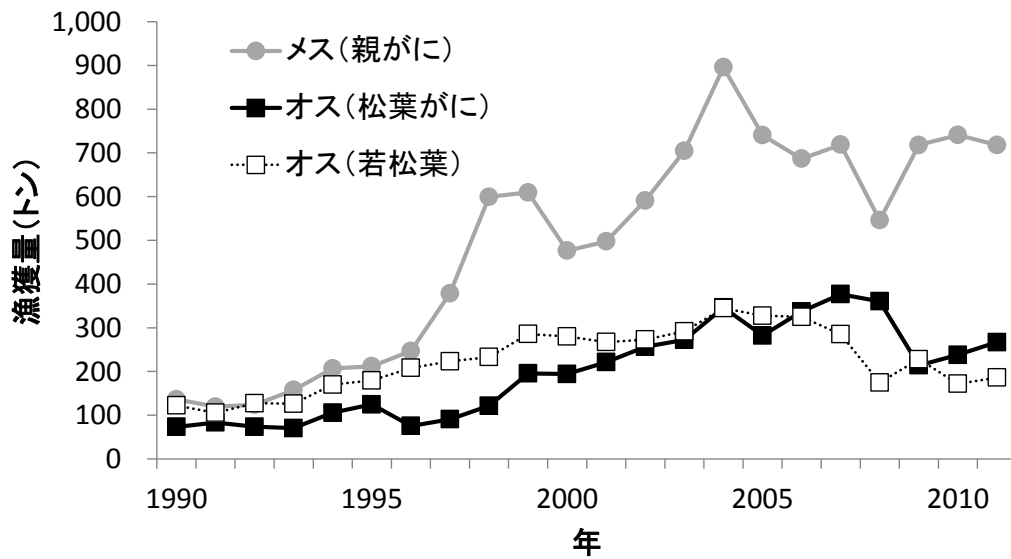


図5 富山県以西の海域におけるズワイガニ雄（松葉がに・若松葉）の資源量  
水産総合水研センター 日本海区水産研究所資料

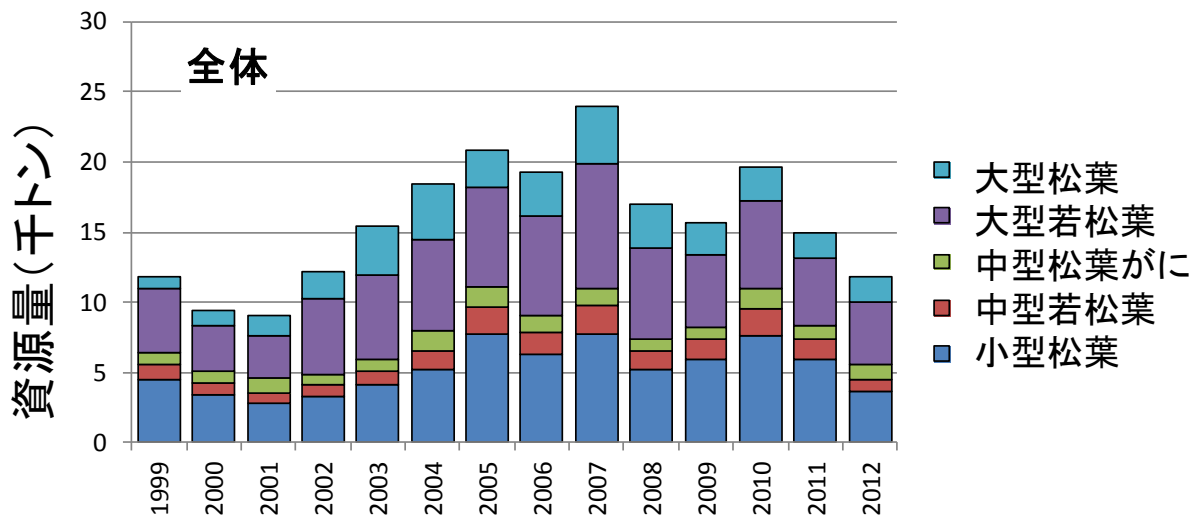


図6 富山県以西の海域におけるズワイガニ雌（親がに）の資源量  
水産総合水研センター 日本海区水産研究所資料

